

令和 5年 8月 13日

東員町議会

大谷勝治 委員長 様

東員町議会

南部 豊

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5年 8月 1日 (火) ～ 8月 2日 (水)【 2日間】
研修(視察)先	京都府舞鶴市・奈良県王寺町
目的(テーマ等)	・ meemo サービス～公共交通を補完する新しい移動サービスについて ・ グリーンスローモビリティについて
参加議員名 (複数の場合)	大谷勝治・片松雅弘・山崎まゆみ・大崎昭一・南部豊
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所管

初日は、舞鶴市役所において新しい移動サービス、舞鶴共生型m e e oサービスの取り組みについて研修を行った。

はじめに、舞鶴市議会議長から歓迎の挨拶を受け、泉交通政策課長より説明。
舞鶴市は、人口 76898 人 34.213 世帯 行政面積 342.10 km²

日本海側の重要拠点都市として、国際港湾舞鶴港と国防の拠点海上自衛隊、海の安全の拠点第八管区海上保安本部があり、車で神戸、大阪まで約 2 時間名古屋へは、約 2.5 時間で都市圏とつながる地方拠点都市です。

公共交通の課題

ドライバー不足

- ・従来から労働環境や責任の重さから、若い世代からの敬遠。
- ・働き方改革により、バス運転者の「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（改善基準告示）」が改正され、令和 6 年 4 月から一人当たりのドライバーの勤務時間が減少することになる。バス会社にとっては全体の運行時間が減少するため、現在の路線維持が課題。
- ・ドライバー不足により、公共交通の需要ギャップが著しくなる。

利用者の減少

- ・地方の公共交通利用者数は減少傾向
- ・圧倒的に便利な自家用車（マイカー）と比較される。
- ・過剰に公共交通が充実している都市部と比較される。
- ・新型コロナにより受けた影響が回復していない。

社会の環境を取り巻く多くの課題や問題点が多くあります。

第 7 次舞鶴市総合計画後期実行計画における目指すべき将来のまちの姿
舞鶴市が目指す公共交通ネットワーク体系

m e e m o 事業としてスタート

そこで、先端技術を有する民間企業との新たな連携を視野に

オムロンソーシャルソリューションズとの包括連携協定を結び、日本交通株式会社
オムロン・舞鶴市 運営組織（舞鶴市共生型M a a S 運営協議会

目的 新しい I T 技術を活用して、住民同士の送迎マッチングを実施することで、
外出機会を創出するとともに、既存の公共交通の役割の補完を目指す。
あわせて、地域における「共助」の土台づくりを目指す。

現在、「令和4年6月以降～」通年で運行を開始（継続運行中）
詳細は別紙参照

質問 Q 運用していて困ったことや課題などは。住民の意見はどのようですか。

A ドライバー不足は否めません。高齢者からは、スマートフォンの取り扱いに問題？など

Q ドライバーの募集に関して、どのようにされましたか？

A 区長会などでお願いをしました。現在26名 男性20名 女性6名
50歳代も、たまに参加してくれますが、ほとんどは60代70代です。

Q 住民同士の送迎において、事故等が発生した場合の保険制度は？

A 個人保険が基本となっています。現在、大きな事故等は発生していない。

研修所感

舞鶴市さんの行政面積は342.10㎢東員町の15倍人口は約3倍弱です。

中心部の公共交通は、比較的利便性は維持しているものの、地域によっては、共助・公助を期待する声は多くあります。

このような、制度を確立するには専門的な知識人の参加が必要であると思います。

最終的には、道路運送法に基づく（自家用有償旅客運送の登録）有償化は必要だと私は思っています。有償にすることによる利用者さんの遠慮が少なくなり、利用率は上昇すると思います。

（有償にした場合の料金設定の徹底した議論・一般的なタクシー業界や運送業との兼ね合い。が必要である）

将来的には、何度も言いますが地域（23自治会）が主体となって運営する仕組みづくりを確立することが、絶対不可欠だと私は思っています。

地域のことは地域で考える !!

令和 5年 8月 13日

東員町議会

大谷勝治 委員長 様

東員町議会

南部 豊

研 修 報 告 書

研修期間	令和 5年 8月 1日 (火) ～ 8月 2日 (水)【 2日間】
研修（視察）先	京都府舞鶴市・奈良県王寺町
目的（テーマ等）	・ meemo サービス～公共交通を補完する新しい移動サービスについて ・ グリーンスローモビリティについて
参加議員名 (複数の場合)	大谷勝治・片松雅弘・山崎まゆみ・大崎昭一・南部豊
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所管

二日目は、奈良県北葛城郡王寺町。

研修場所 美しヶ丘集会所

研修事項 グリーンスローモビリティについて

人口 23.950 人 世帯数 10.706 世帯 ほぼ東員町と同規模

王寺町議会議長（沖 優子議長）から歓迎の挨拶。美しヶ丘 上平自治会長の説明

グリーンスローモビリティは、2年前に、当町でも短期間ながらネオポリス地区内において、実証試験的に行われた経緯があります。

しかしながら、その後簡単な実証報告はあったものの今後については、進展もなく現在に至っている。

当町においても、在来地区は難しくてもネオポリス地区での運行の可能性は大。今回の研修はもっとも身近な施策ととらえた課題として説明を受けた。

この地区は、約 1.400 世帯・3.600 人が住み、高齢化が進んでいる地域でもあります。また、坂道が多く外出時の移動手段の確保が課題となっていました。

そして、町やヤマハ発動機（株）・千葉大学予防医学センターが行う実証実験としてグリーンスローモビリティの運行が実現した。コミュニケーションや外出の機会が増加することによる健康への効果が期待されている。

運行するための運転手やサポーターはすべて、自治体で地元の人たちです。

カートは 7 人乗り、時速 20 km 未満で公道を走行できる電気自動車です。

住宅街を走り、（決められた 3 ルート走行）手を上げて合図すれば、どこでも乗降することができます。

私たちも乗車体験をさせていただきましたが、非常にスムーズに走行し、危険性を感じることはありませんでした。

質問事項

Q 実証実験を行われて感じられた課題や、手ごたえ改善点等は？

A 当初は、午前 3 時間、午後 2 時間の運行でしたが、運転手の負担が大きいため、実証実験後は午前 2 時間に変更。利用者は時間を見て上手に利用している。

Q 運転手やサポーター等の担い手は十分ですか。運転手になるための要件は。

A この地区はボランティアの方が多く、現在運転手 13 名、サポーター 17 名、平均年齢は 70 歳代前半です。運転ができれば問題ないと思います。

Q 自治体が主体となって運行されていますが、行政からの支援などありますか。

A 車両は王寺町がリース代を負担しており、無償で自治会が借りています。自賠責保険料、車検代もリース代に含まれている。

Q 運行している車両は何台ですか。また、所有者は誰になりますか。

A 車両は 1 台で、所有者はヤマハ発動機です。

Q 事故が発生した場合の対処方法は。保険等、町はどのように対応するか。

A 車両の走行スピードが 19 km/h ですので、大きい事故は発生しにくいと考えている。但し、任意保険には自治会で加入している。万が一の事故の時は、原則自治会で解決する方向です。

研修所感

将来的には、何度も言いますが地域（23 自治会）が主体となって運営する。グリーンスローモビリティは、在来地区には不向きだと思いますので、在来地区には、自由に使える車を貸与し、運行費用等は各自治会で考える、仕組みづくりを確立することが、絶対不可欠だと私は思っています。

地域のことは地域で考える !!